

ECCコンピュータ専門学校 学校関係者評価委員会報告書

学校法人山口学園 ECCコンピュータ専門学校 学校関係者評価委員会は平成29年9月8日に「2016年度自己評価報告書」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので報告いたします。

平成29年9月30日
学校法人 山口学園
ECCコンピュータ専門学校
学校関係者評価委員会

1.学校関係者評価委員（「ECCコンピュータ専門学校 学校評価実施規程」選出区分）

【関連業界等関係者 「同第12条第1項（1）」】

委員長

伊藤 裕一 氏 （インフォームシステム株式会社 専務取締役）

野間 伸治 氏 （株式会社アコードセブン 代表取締役）

【卒業生 「同第12条第1項（2）」】

郡山 太志 氏 （ITエンジニア：キャノンITソリューションズ株式会社）

谷垣 允哉 氏 （ITエンジニア：カコムス株式会社）

【保護者または地域関係者 「同第12条第1項（3）」】

猿木 唯資 氏 （済美福祉センター連合運営委員会 会長）

【その他校長が必要と認める者 「同第12条第1項（4）」】

土江 彩奈 氏

【同席者】

宇佐見 眞也 （ECCコンピュータ専門学校 学校長）

納谷 新治 （ECCコンピュータ専門学校 副校長・教務課責任者）

池田 宗人 （ECCコンピュータ専門学校 進路指導課責任者）

下西 智也 （ECCコンピュータ専門学校 入試課責任者）

河西 雄輔 （ECCコンピュータ専門学校 広報課）

三木 武志 （山口学園 自己点検評価室）

■【冒頭】

今回から、済美福祉センター連合運営委員会会長の猿木唯資様に新たに委員として参加いただきます。学内で評価した自己評価報告書をもとに、外部の方から率直な意見をお伺いし、学校運営に反映していくことがこの委員会の最大の目的です。長時間になりますがご意見のほどよろしくお願いたします。

項目1は、昨年に引き続き変更なし

項目2は、今年度重点的に行っている項目となります

「より質の高い実践的な職業教育を提供できる学校を目指している」(宇佐見)

『すべては学生のために！』『就職の質・量ともに関西No.1を目指す』そのために教職員が一丸となって連携し『教育』に取り組む。重点項目は、

- ・学修成果の向上（業界就職・資格取得・コンテスト）
- ・教育の質の向上（保証）
- ・企業連携の強化（職業実践）
- ・継続率（進級率）の向上
- ・授業力、教授力、指導力（FD・SD）の強化
- ・グローバル化に対応するシステムの構築

※項目1：学校の教育目標

※項目2：本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

■【自己評価報告書に基づく報告・質疑応答】

(1)教育理念、目標

項目	内容
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	今まで保護者や学生に学校の理念・目標を伝えられていなかったため、全体のオリエンテーションを実施し、各カレッジの理念・目標をお伝えさせて頂いた。また年2回保護者会を実施し、前期・後期の取り組みについてお伝えするよう改善した。保護者全員が参加しているわけではないので、今後はさらに多くの方にお伝えできるよう進めていきたいと考えている。(宇佐見)
質疑応答 Q 保護者の方の参加率をどうすれば向上できるか？を保護者の方々にぜひ伺ってほしいです(伊藤様)	A1 年生は約5割の参加率。学年が上がるにつれて参加率は減少する(3割~4割)。欠席された方にはオリエンテーション資料とハンドブックを郵送している。来て頂いた保護者の方のアンケート結果は非常に高い ※5段階中4ポイント以上が多い(宇佐見、納谷)

(2) 学校運営

項目	内容
情報システム化等による業務の効率化は図られているか	今年度は④にしている（昨年は⑤）。例えば、出席の入力システム等まだまだ効率化を図れていない部分があるのでこのような評価とさせて頂いた。（宇佐見）
質疑応答 Q 具体的な効率化はどのようにやっているのですか？（猿木様）	A 例えば大学では教室に入ればIDカードをかざして出席管理ができるが本校ではまだアナログ入力の状態。成績管理も現状エクセルで教員が管理している。各教員13科目を担当しているので13科目分の入力が必要となり、この辺りを今後は効率化していきたいと考えている（納谷）

(3) 教育活動

項目	内容
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	我々はすべては学生のために、というよりすべては学生の業界就職のために、という観点で教職員一丸となって学校運営を行っているため5。（納谷）
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	カリキュラムに関しても業界就職から逆算してカリキュラムを実施している。カリキュラムを作成する際に教員になぜその授業が業界就職に必要なかをプレゼンしてもらっているため無駄な授業は一切ないと認識している。（納谷）
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	企業さんに沢山来て頂いている。ゲームCG分野だけで年間のべ60社以上来校頂いている。IT分野は年間のべ30社。デザインは年間のべ23社。企業連携を実施するメリットは2つ。制作期間の短縮と企業さんから業界事業が伺える点。さらにITとデザインは本校の学生だけのインターンを実施している。昨年本項は④を今年は⑤としている。（納谷）
質疑応答 Q 弊社でもインターンを最近数多く実施しているが、一般教養の部分で個人の差がかなりある傾向（例えば会議の場などでかなり控えめなインターン生が多い印象）そのあたりどのような教育をされていますか？（野間様） Q 制作現場に入ったときに、技術はあるけどおかしな発言をしてチームメン	A 挨拶指導等、全般的なことは指導しているのですが、体系立てた指導はできていないので付け焼き刃の状態かもしれない（池田） A 現状業界就職率は年々上がっているが、人間力も比例して向上していると言われると、まだまだの状態。普段から学校をあげて徹底的に指導していくことが重要かと感じている（宇佐見） A IT分野よりゲーム分野は、チーム制作を先に取り入れたので対人関係をうまくコントロールできる子も多いが、

バーから置いていかれることがある (野間様)	それでもまだまだだと感じている(宇佐見)
Q 上級生・下級生とのつながりがありますか？(郡山様)	A IT は、ティーチングの授業や、アプリ開発授業を学年をまたいで実施。ゲームも夏季・春季の時期でゲーム JAM を実施。デザインは普段からよくある(納谷)
Q 結局は授業内だけのつながりだけで学外でも仲良くなりたいたからという意識を持った学生は少ないんですよね。アーティスト美容の学生はその辺長けている気がする。アーティストの学生と何かコラボするような取り組みはどうですか？(郡山様)	A おっしゃるとおりで、大学生と専門学校生の大きな違って人間力の部分なのかなと感じている。これは専門学校の永遠の課題。色々ご指摘頂き大変うれしいです。何かそういった仕組みを作れるように検討していきたいと思います(宇佐見)
Q 例えば教員が休んだときはどのようにされているのですか？(谷垣様)	A その場合は自習となっています。科目が細分化されているので代わりができないのが1つの理由と、もう一つは職員室に先生がいないので代わりに授業ができない。現状振替授業のシステムがない。(納谷)
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	数多くの研修に行かせているため⑤としている(納谷)
職員の能力開発のための研修等が行われているか	ビジネス系のイーラーニング制度があったり、研修等にも積極的に参加している。(納谷)
現状と課題	企業連携が多く学生が右往左往して大変。 リアル系のゲームとアニメ系ゲームを作っているゲーム会社さんでは評価する内容が違うため、学生がどちらを参考にすれば良いか戸惑う場面がある。(納谷)

(4) 学修成果

項目	内容
就職率の向上が図られているか	IT・デザインはほぼほぼ業界就職できている。 ゲームは6割程度がゲーム会社。3割がIT系。1割が製造などに進んでいる。(池田)
進路、就職に関する支援体制は整備されているか	昨年④だったが、今年は⑤を付けさせて頂いた。 アンケート結果等々で高い評価を得られているので。課題としてはゲーム分野の業界就職率をさらに向上していきたい。卒業するのが一杯いっぱいの子が一定数いますその学生達を業界就職させるのが課題。(池田)

<p>質疑応答</p> <p>Q 同窓会を発足されたのをフェイスブックで拝見しましたが、それは卒業生の状況把握が目的ですか？（郡山様）</p>	<p>A もちろん卒業生と学校側のつながりも意識していますが、卒業生同士のつながりをもっと作っていききたいという思いがあり、今回発足する形となった（宇佐見）</p>
---	--

(5) 学生支援

項目	内容
報告	<p>学習支援でできることがまだまだあると思っている</p> <p>学生相談の支援体制はフル稼働（納谷）</p> <p>2人に1人が奨学金を利用しているが、学校独自で何かやっついていかないといけないと感じている（宇佐見）</p>
保護者と適切に連携しているか	ここはしっかりできている（納谷）
卒業生への支援体制はあるか	個別の指導は進路池田がかなり力を入れてやってくれているので③から④にさせて頂いた。（納谷）
高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか	入試課と学園本部 SR が高校連携授業を実施。ほかに中・高生を対象にプログラミングセミナーも実施している。（宇佐見）
<p>質疑応答</p> <p>Q 僕らがいた頃と今とでは学費の変動はありますか？（郡山様）</p> <p>Q 退学理由に関して、生徒同士のやりとりで嫌な生徒がいるなど統計ってとられていますか？（谷垣様）</p>	<p>A 据え置きです。+ノート PC も支給している（納谷）</p> <p>A</p> <p>1 学習意欲低下</p> <p>2 進路変更</p> <p>3 経済的理由</p> <p>母子家庭の人が最近増えているが、母子家庭の方に対して学費が減額されるなどの制度は現状ない。現状最大 12 万 / 月が奨学金で受け取ることができるが 4 年間となると約 600 万となり、丸々学生の借金となるので負担が大きい（宇佐見）</p>

(6) 教育環境

項目	内容
施設、設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	辛辣なアンケート結果をもらっている。一気に全て改善はできないが、もらった結果を改善できるように毎年色々実施している。（宇佐見）
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	海外研修の企画は納谷を中心に行っている。今年度は初めてフィンランドの大学との提携が決まった（納谷）

防災に対する体制は整備されているか	防災訓練は年2回実施していて、今年は安否確認もできるように改善した（宇佐見）
<p>質疑応答</p> <p>Q インターンシップに行く学生さんの目的って何でしょう？（野間様）</p> <p>Q 設備は購入ですか？リースの方が良いのでは？と思うのですがいかがでしょう？（谷垣様）</p>	<p>A 就業体験というよりは、就職を目的としている学生が多いと思う（池田）</p> <p>A 来る学生さんによってインターンシップで求めている目的が違う印象がある。一部の学生は1か月丸々インターンに来て1本アプリを作っていたり、留学生は社会とはなんぞやの部分を知りたいなど様々で、どんなことを目的としているかがわかればこちら側も対応の仕方は変えられるんですがね（野間様）</p> <p>A 全て購入です。リースも考えたことはあるのですが、今学生はみんな自分のノートPCを持っているので実習室のPCは大きく変更はしていなかったのですが、次年度は大幅にスペックアップしようと考えています（宇佐見）</p>

(7) 学生の受入れ募集

項目	内容
学生募集活動は、適正に行われているか	イベントは各分野の教員に担当してもらっているのでズレはないという認識です（下西）
学納金は妥当なものとなっているか	ノートPC支給をしても学費が据え置きなので⑤を付けています（下西）
<p>質疑応答</p> <p>Q 来たら来ただけ受け入れたらいいということが良いとは思いますが（理念的に）現状はどのようにされていますか？（伊藤様）</p>	<p>A 今年度は定員に達したコースもありますので教室の確保を確認しながら定めた定員に沿って募集を行っています。（下西）</p>

(8) 財務

項目	内容
報告	学校としてもあるのですが山口学園全体として管理してもらっている。問題なく運営できているのですべて5点を付けさせて頂いている。（宇佐見）

(9) 法令等の遵守

項目	内容
報告	職業実践専門課程で決まりがあるので、ここは徹底している（宇佐見） 情報開示もすべて行っております。

(10) 社会貢献・地域貢献

項目	内容
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	去年は4点だったが、今年は3点に下げている。 アーティストと国際外語はサービスラーニングを色々実施していますが、コンピュータは他の2校に比べて専門性の部分で貢献することがなかなか難しいのが現状のため3点。（宇佐見）
質疑応答 Q キャンドルナイトなど色々学生さんに参加頂いているが、今後もどうぞよろしく願いたいします。また、地域のお年寄りさんの方に向けたスマホの使い方など指導して頂けないでしょうか？（猿木様）	A 学生もこういったことに参加させてもらおうと自尊感情が芽生えるのでパソコンを使ったものであればぜひとも協力させて頂きたいと思います（納谷）

(11) 国際交流

項目	内容
報告	現在、96名の留学生在籍している。本校の留学生の受け入れ条件はN2（もしくはそれ相応）取得が必須と高いハードルを設定している。山口学園全体では40か国の留学生在籍している。（宇佐見） 留学生は、これから積極的にとっていく必要がある（例えばベトナムの留学生など）

コン専事業報告について（別紙）

項目	内容
報告	基本情報技術者試験の合格者は今年下がったが、その反面さらに難易度の高い資格がとれている。また日本ゲーム大賞も4年連続の受賞が決まり、受賞作品9作品中4作品がECCの作品だった。引き続き、関西NO1の学校にするために日々取り組んでいます。

■【最後に】

現在、生徒数がどんどん増えているのですが、分母が増えるだけで良いことだけではなく、マイナス要素も出てくることもあるので、その点気をつけていけたらと思います

次回2回目は、1年間の総括として報告させていただきます。ぜひ次回もよろしくお願いいたします

(宇佐見)

以上